

<「知るっば!久留米」 令和3年10月7日(木) 12:30~放送分>

## 北野地域の魅力 ～第1回～ 「北野ってどんなところ？」

<ゲスト：久留米市地域おこし協力隊 井上 未央さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今月は、久留米市の北東部に位置する『北野地域の魅力』をテーマにお送りします。

ゲストはこの方です。

ゲスト:井上さん(以下「井上」)

こんにちは!

久留米市地域おこし協力隊をしている井上未央です。

北野総合支所の産業振興課に在籍しまして、東部エリアの観光を担当しています。

よろしくお願いします。

坂本 地域おこし協力隊というなんとか戦隊みたいですけども。(笑)

第1回目の今回は、『北野ってどんなところ?』というテーマでお送りします。

まず、井上さんの簡単な自己紹介をお願いします。

井上 私の出身は熊本県荒尾市で、グリーンランドのすぐそばに実家があります。

元々はフードコーディネーターをしております、前職は地元で小さなパン屋を営んでいました。

素材にこだわった天然酵母のパンを一人で手ごねして、ぼっつらぼっつら焼いて売っていました。

その前は小学校の図書事務員をしたり、スポーツジムで水泳を教えていた事もありました。

現在、中学1年生と1歳の双子の3兄弟の母をしております。

坂本 なかなかバラエティに富んだというか、色々な経歴をお持ちの井上さんなんですけれども、

その経験が今のお仕事にも活かしているのかなと思います。

久留米市の北野町に移住して、今お住まいということですね。

それで地域おこし協力隊のお仕事をされているということなんですけれども、

地域おこし協力隊になられたきっかけや理由を教えてください。

井上 先に久留米に引っ越したいという気持ちがありました。

それで、市営住宅なんかの情報を探していて、たまたま久留米市のホームページを見た時、

地域おこし協力隊の募集があっていると知りました。

その内容を見たところ、「これは私のことを呼んでるな」と思ったので、応募して今に至ります。

実は、地域おこし協力隊としての採用が決まって初めて、「北野」を知りました。(笑)

多分、通ったことはあったんでしょうけど、北野町に行ったという印象は無かったです。当時、地域おこし協力隊が城島、田主丸、北野の3地域で募集されていたんですね。第1希望は、実は城島だったんです。

私はお酒が好きなので、「お酒だったら城島かなあ」というイメージで、城島を最初に希望させて頂いていました。

その次に田主丸ですね。

「ブドウはおいしいし、山もきれいだし、田主丸もいいよね〜」という感じで第2希望でした。そして、最後に残った北野が第3希望だったというわけです。

坂本 第1希望が城島っていうのはおもしろいですよね。

もちろん、お酒が有名だというのもあるし、田主丸もフルーツが有名だったり、耳納北麓がきれいだったりしますからね。

まあまあ、それで北野は第3希望ということで、見事に採用になったんですけども、そんなきっかけで久留米に来られて、北野は実際どんな感じでした？

井上 北野は、私の中に何にも情報がなくて、来たこともなければ聞いたこともなかったぐらいの、本当に何も知らない状態で北野にお願いしますって言われたんですね。

ただ、「JA みい」の存在は知っていたんですよ。

飲食店に勤めていた時に、サラダのビュッフェがあったので葉物野菜を準備するんですけど、その時に、毎日のように「JA みい」という文字を見ていたので、「JA みいは葉物野菜がたくさん採れるところなんだなあ」というぼんやりとした印象はありました。

坂本 野菜の箱とか包装紙に「JA みい」って書いてあるわけですね。

井上 そうなんですよ。

そこで「JA みい」っていう所があるんだなあというのは知っていたんですけど、そこから久留米・北野とは、全然繋がらなかったですね。

でも、こっちに来て「JA みい」と書いてある箱や包装紙をよく見るぞってなって、自分が準備してお客さんに出していたお野菜たちのふるさとなんだとそこでわかって、そういうことだったのねと、その時に縁を感じました。

坂本 今は北野町に住んでいらっしゃいますよね？

井上 そうですね。今は北野町の端っこの金島に住んでおります。

坂本 いいところですよ。いわゆる田園地帯という感じですよ。

井上 そうですね。田んぼ、畑という感じでとても静かだし、とっても気に入っています。移住した経緯としては、担当地域に住むという条件があったので、という感じです。

北野町の金島に決めた理由は、当時小学生だった長男の転校先は、なるべく小規模の学校がいいなど希望していたので、1番小さいかな?という理由で金島を選びました。

坂本 なかなかいい感じの場所で、子どもさんものびのびと育つにはいい場所だと思いますね。それでは、井上さんが地域おこし協力隊として実際活動されるようになって、北野地域で見つけた魅力などを順にお話をお聞きしたいと思います。

井上 私の知っている範囲での北野町をご紹介しますね。皆さんご存じの通り、久留米市の北東部に位置する地域で、住民の数およそ17,000人の方が暮らしています。おじいちゃんおばあちゃんも多いんですけど、皆さんとても元気でとても穏やかな地域ですね。主な産業は農業。特に葉物野菜の生産量がとても多く盛んですね。レタスなんかも、私が知ってる丸いレタスだけじゃなくて、何種類もあるんです。普通の緑だったり、赤だったり、丸い普通のレタスだったり、巻いていないリーフレタスだったり。こんなに種類があるのかってぐらいあります。他にも、小松菜、ほうれん草、ネギやニラ、水菜やみつば、ラディッシュやパクチーは日本一の生産量を誇る農家さんもいらっしゃいます。農家さんがとても元気ですね。

坂本 確かに葉物はとっても有名で生産量も多いですね。私は以前、農政部にもいましたのでよく知っているんですけど、他に何か気になっている農産物とかはありますか？

井上 うーん、気になってる農産物ですね。初夏の頃はトウモロコシがすごく美味しいんですよ。もちろん、今までトウモロコシを食べたことはありましたよ。まあ、採れたてが一番おいしいというのもあると思うんですけど、今まで食べてきたトウモロコシは何だったんだろうっていうくらい本当においしいですね。最近は直売されている農家さんも増えているので、色々な農家さんの色々な品種を食べ比べするという楽しみ方もできるようになってきていますね。定番の黄色いものや白いタイプ、白と黄色が混ざったバイカラーのものとか色々な種類があって、生で食べておいしいものなど、今まで私が知らないトウモロコシがたくさん生産されています。

坂本 トウモロコシでバイカラーという表現は、なかなか新鮮ですね。そういう魅力的な北野地域の農業なんですけど、農家さんとの交流はあるんでしょうか？

井上 そうですね、農家さんがいっぱい来られる課に配属されているということもありますし、地域の情報を発信する際に、農家さんの「今、こんなモノが採れてますよ」といった情報も発信させていただいています。北野に来てびっくりしたのは、なんせ若い農家さんがたくさんいらっしゃるんです。

私の中の農家さんって、おじいちゃんおばあちゃんのご年配の方をイメージしていたんですけど、若くてバリバリの農家さんが多くて、しっかりと稼げる魅力的な職業として確立されていてすごいなと思います。

坂本 本当に良いことですね。

井上 中には自家野菜を使ったお店を運営されている方がいたりしますし、とにかく北野の農家は、若くて、元気で、イケメンも多いと思っています。(笑)

坂本 なかなか農業の素敵なお話は尽きませんが、今日はお時間が来てしまいました。地域おこし協力隊の井上さん。興味深いお話をありがとうございました。次回は『北野の住み心地』をテーマにお聞きします。お楽しみに。